

教育センター・ニュース

Education Center, Tottori University

NEWSLETTER No. 15

第15号 2016年3月31日発行

目次

- ・ 高等教育研究開発部門の活動（高等教育改革関係／GP関係／FD関係／その他）・・・・・・・・・・・・・1
- ・ 共通教育開発部門の活動（教養教育改革の続報／米子キャンパス全学共通科目の調査／その他）・・・・・・・・・・・・・2
- ・ 外国語部門の活動（2015年度春季アデレード大学英語研修／台湾・銘傳大学英語研修）・・・・・・・・・・・・・3
- ・ 健康スポーツ部門の活動（トレーニングルーム使用方法説明会／スキー実習の実施）・・・・・・・・・・・・・4
- ・ 教育センター関係教員名簿・・・・・・・・・・・・・4

高等教育研究開発部門の活動

●高等教育改革関係

平成27年度より学士課程において科目番号制が導入され、各科目の難易度や科目間の関係や系統をわかり易くしました。現在、この科目番号制を大学院前期課程及び修士課程に導入するために検討を行っており、可能であれば、平成28年度から導入する予定です。

●GP関係

本学においては、平成25年度「地（知）の拠点整備事業(COC)」に採択され、地域における大学として地域志向教育に取り組んでいます。平成28年度から、新たに数科目開設する予定ですが、そのなかで当該部門としては外部機関と連携し、地域社会の安全を維持していくことを目的に社会安全政策論の講義の準備を進めています。

●FD関係

11月16日（月）～20日（金）全学共通科目の授業公開を行い、教員20名、職員7名、学生67名が参加しました。参加した教職員は各授業のアンケートを記入し、この内容は、各担当教員にフィードバックされ、授業改善のための資料となりました。

12月11日（金）株式会社アビオン・エアラインスクール代表取締役社長／学院長、和田

雅子氏を招いて、地域・大学におけるホスピタリティに関する講演会を実施し、200名を超える教職員、学生が聴講しました。また、平成28年1月25日（月）鳥取警察署長森山慎一氏を招いて、地域社会の安全に関する講演会を実施し、100名超の教職員、学生が聴講しました。

近年とくに教育の実質化が重視される傾向のなかで、教員の教育力が問われており、これに対処し、本学におけるFDの考え方を統一するため、12月の教育支援委員会において、「鳥取大学におけるFDの考え方」として以下の通り提起を行い承認されました。

まず、FDとは「大学の授業の内容及び方法等の改善を図るための組織的な研修及び研究」（出所：大学設置基準）と定義されました。さらにFDの例として、

- 1) 大学の理念や諸改革を理解する研修
- 2) 新任教員の研修
- 3) 教員の教育技法を改善する研修や研究
- 4) カリキュラム開発の研修や研究
- 5) 学習支援のための研修や研究
- 6) 教育制度の理解のための研修や研究
- 7) 評価活動（同僚教員による教授法評価、教員の諸活動の定期的評価など）
- 8) 教員の教養を高める各種講演会
- 9) 研究と教員の調和を図る研修や研究
- 10) 大学教員の倫理や社会的責任に関する研修や研究

の10項目が例示されました。今後、各部局等でFD活動を行う場合の参考にして頂ければと

思います。

●その他

授業アンケート実施規定にもとづき、平成26年度後期に実施した同アンケートの各学部学科の傾向について、12月の教育支援委員会で報告を行いました。同データについては、近く各学部へ送付される予定です。各学部学科とも各アンケート項目のスコアは概ね4点前半で推移しており、多くの教員は、授業アンケート項目で示す基本的な教育活動を行っており、この数値が今後も継続して安定的であることが望まれます。また、学生の自由記述回答数は、100を超えており、概ね好意的なものでした。学生が望む授業の進め方としては、「具体的な事例」をもとにする説明や、「わかり易い（板書や資料、話し方など）」進め方等でした。

(部門長：永松利文)

共通教育開発部門の活動

●教養教育改革の続報（文系科目の選択必修化）

前回、前々回のニュースでお知らせしたように、全学共通科目教養科目の科目区分が平成27年度から改訂され、これまでの「基幹・主題・特定」に替わり「基幹・主題・キャリア」となりました。さらに、本学学生が卒業後、地域や世界で活躍するのに必要な豊かな教養を身につけさせることを目指し、全学共通科目の文系科目を充実させようとする動きが始まりました。

学生に身に付けさせたい教養として、人文科学分野においては「哲学・倫理学」、「心理学」、「芸術学」、「文学」の4領域、社会科学分野においては「法学」、「政治学」、「経済学」、「歴史学」の4領域の計8領域にそれぞれコア（核）となる科目を設け、これら科目を選択必修で学生諸君に学ばせる方向に進めることが確認されました。科目名称については下表のような案が各教科集団から提案されています。これらの8領域は、本学の大学憲章および教育理念等を考慮に入れた結果、学生が所属する学部に関係なく必要な

教養として選ばれ、既存の基幹科目の枠内に開設することとしています。

	学問領域	科目名
人文分野	哲学・倫理学	「哲学・倫理学」
	心理学	「心理学」
	芸術学	「芸術入門」
	文学	「文学」
社会分野	法学	「憲法学」
	政治学	「政治学」
	経済学	「経済学」
	歴史学	「歴史学」

また、これらの科目は、本学学生の教養形成にぜひ必要だと考えられる内容が、可能な限り広い範囲にわたり盛り込まれ、かつ、コンパクトに精選されているものであることが要求されており、開講年度・担当教員によらない同一の内容で、統一的・共通的な教育を保証するものであることを原則としており、学生の履修機会を確保するため、同一科目を複数クラス開設することとしています。

●米子キャンパス全学共通科目の調査

平成27年11月24日（火）・27日（金）の両日、米子キャンパスの全学共通科目の改善を目的として、同キャンパスにおいて「コミュニケーション英語B」、「医療英語Ⅱ」、「総合英語Ⅱ」、「芸術」、「生活と法律 刑法」、「哲学入門」の授業参観、及び学生へのヒアリング調査を実施しました。米子キャンパスの全学共通科目の調査は、平成26年度前期から前・後期に各1回ずつ実施しており、それらの結果は調査報告書としてまとめています。

具体的な調査方法ですが、教育センターの教員が授業を参観し、併せて受講生に対してその授業に関する簡単なアンケート調査を実施しました。アンケート用紙は授業直後に回収して、2日間実施したヒアリングの際の参考資料としました。ヒアリングでは、医学科、保健学科、生命科学科の学生計13人から、今回調査対象とした授業科目やその他の全学共通科目等について広く意見を聴取しました。

今回の調査結果は、「平成 27 年度後期 医学部学生を対象とした全学共通科目調査報告」としてまとめました。今後も継続的に米子キャンパスの全学共通科目の調査を行っていく予定です。

●その他

地域志向型科目（COC 科目）関係の新規開設科目についての検討、平成 28 年度の「鳥取大学を知る」、「鳥取学」の開設についての検討を行いました。教養基礎科目については開講形態等も含めて見直しを行いました。さらに、シラバスに英文科目名、学位授与の方針、グランドデザインの 7 つの要素、予習復習欄が適正に記入されているかどうかチェックを行いました。

（部門長：橋本隆司）

外国語部門の活動

鳥取大学が文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」（平成 24 年度）に採択されてから、その事業に関連するさまざまなプログラムが国内外で展開されてきています。現在、教育センター外国語部門が視察等で関わっているプログラムには、オーストラリア・アデレード大学英語研修、台湾・銘傳大学語学研修、メキシコ海外実践教育、マレーシア・マラヤ大学語学研修、大山英語研修等があります。今回は、最初の 2 つの英語研修について紹介・報告いたします。

●2015年度春季アデレード大学英語研修

2016 年 2 月 15 日から 3 月 18 日までの 5 週間、オーストラリアのアデレード大学において英語研修プログラムが実施され、外国語部門の小林昌博准教授、滝波稚子助教が視察を行いました。参加した 6 名の学生は、それぞれホームステイをしながら語学センターへ通いました。授業は、General English for Academic Purposes Program と題するプログラムの枠組みで実施され、座学の英語の授業だけでなく、学外への調査や野生動物とのアクティビティーを通して英語を学びました。また、ホーム

ステイは語学を使う機会というだけではなく、オーストラリアの文化や風土に触れるととても良い機会であったようです。

●台湾・銘傳大学英語研修

鳥取大学が前述の推進事業に採択されて以来、その初年度から実施されて来たのが、台湾の銘傳大学で実施されている海外短期英語研修です。平成 28 年 2 月 23 日から 3 月 17 日において行われた第 4 回台湾・銘傳大学英語研修について報告します。選抜後の参加者は 1 年生から 3 年生まで 18 名、内訳は、農学部 9 名、工学部 5 名、医学部 3 名、地域学部 1 名（女子学生 9 名、男子学生 9 名）でした。派遣生の TOEIC の得点の平均は 589 点で、優秀な学生を派遣出来たと言えるでしょう。本来、20 名の学生を派遣する予定でしたが、18 名となったのは、平成 27 年度の春期の海外研修の学生募集では、オーストラリア、アメリカ、マレーシア、台湾と派遣先が多様化していたこともあったのかもしれない。また、研修費が、5 万円上昇し、20 万円となってしまったことも影響した可能性があります。グローバル人材育成推進室が中心となって行われている研修ですが、教育センター関連の教職員として中島廣光大学教育支援機構長、和田綾子外国語部門教授、長村好恵教育支援課副課長、吉田泰明教育支援課主任も視察を行いました。研修では、例年同様、銘傳大学の 9 名の専任教員らが 70 時間の大変優れたスキル別の指導を行い、英語力のみならず、文学、心理学、異文化理解力等の涵養が図られました。昨年度からは、関西空港を集合場所とするなど、学生にある程度の自立が促されましたが、今年度は、学生が、日本の文化や食、及び、鳥取県や鳥取大についての情報を発信する英語のプレゼンテーションも行なわれました。昨年度は、トビタテ留学 Japan のプログラムの選考に通り、カナダとインドネシアの両国に派遣された学生が銘傳大派遣生の中から 1 名現れました。多くの派遣生は、帰国後も銘傳大学の学生と交流を続けており、本プログラムが学生に与える影響は、大変大きいものがあります。

（部門長：福安勝則）

健康スポーツ部門の活動

●トレーニングルーム使用方法説明会の開催

平成27年度の第3回目、第4回目のトレーニングルーム使用方法説明会を10月13日と10月14日に開催しました。参加者は両日合計で個人13名、団体2団体でした。

●スキー実習の実施

(1) スキー実習参加者対象のスキー実習説明会の開催

スキー実習参加者を対象に安全教育などを内容とするスキー実習説明会を開催しましたが、本年は初心者対象の実習と中・上級者対象の実習を別個に実施しますので、初心者対象の説明会を1月19日に、また中・上級者対象の説明会を1月20日に開催しました。

(2) スキー実習の実施

大山スキー場にてスキー実習を行いました。初心者対象のスキー実習は2月16日～2月19日に実施し、参加者は23名（男子11名、女子12名）でした。また中・上級者対象のスキー実習は2月21日～2月24日に実施し、参加者は25名（男子16名、女子9名）でした。

(部門長：福元和行)

教育センター関係教員（○は部門長、*は兼務教員）

センター長：藤村 薫

高等教育研究開発部門：○永松利文、吉野 公*、武田元有*

共通教育開発部門：○橋本隆司、田畑博敏、後藤和雄、井上順子、桐山 聡、武田元有

外国語部門：○福安勝則、T. サージェント、松本雅弘、和田綾子、小林昌博、S. リーン、滝波稚子

健康スポーツ部門：○福元和行

※ 外国語部門、健康スポーツ部門の兼務教員は割愛しています。



編集・発行 鳥取大学教育センター広報誌編集委員会 電話：0857-31-5795（内線2485）

E-mail：st-soumu@adm.tottori-u.ac.jp